

情 報

更生の花は
慈愛の土に咲き



文京区保護司会

主唱 / 法務省

彼の生きづらさって、
私が頑張って分かっていても、
全部は分からない。

でも、決めたの。
生きづらさを抱えて生きていく彼を
受け止めようって。

彼の生きづらさにも、彼の立ち直りにも、
終わりはないのかもしれないけれど、
私なりに寄り添うことならできると。

私もね、いろんな人に支えられて、
やってきたんです。

そう。生かされて生きてきたんですから。

#生きづらさを
生きていく。

犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ
第71回 社会を明るくする運動

7月は“社会を明るくする運動”強調月間・
再犯防止啓発月間です。

社明 しゅめい 🔍 検索

INDEX

ごあいさつ 2

学校紹介 文京区立柳町小学校 4

地域活動紹介 九地区合同行事「文の京こどもまつり」
..... 6

第71回 社会を明るくする運動 8

令和3年度文京区保護司会定時総会 9

会務報告 9

更女だより 11

ホッと一息 あとがき 12

令和三年度を迎えて

文京区保護司会会長

亀田 一良



令

和三年度の文京区保護司
会定時総会を五月十三日に予定し準備を進めていきました。緊急事態宣言の解

除が十一日なので何とか行えるのでないかと思っていました。新たな感染者が減少されるような状態ではないので昨年と同様に書面での決裁に切り替えて行うことにしました。今年は役員改選の年になるので出来れば開催したいと思っていました。また全員で集まれる機会もこのところ少ないので残念な思いです。

さて昨年度を振り返ってみますと、ほとんどの行事が中止ないしは縮小になってしまい思うような活動が出来ませんでした。今年度も例年通りの活動をしていく予定ですが、現状ではその時の状況を見極めながら進めていかざるをえないと思っております。その時には皆様方のお力を借りながら進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

次に新任保護司確保の件ですが、三月末の時点で文京区の定員八十二名に対して六十五名です。昨年度は年令による退任が二名、自己都合による退任が二名、計四名に対して新任の保護司は二名でした。色々と集まれる機会が少なかつたため、なかなか新任の候補者があがって

きませんでした。文京区は安全・安心な町ということで対象者を担当されていない保護司も多くいますが、その分犯罪予防活動も大変重要になっていきます。そのための体制もとっていききたいと思っております。

また今年度から新たに特例再任制度が出来ました。今年度は二名が退任予定でしたが、話し合った結果、特例再任で残ってもらうことになりました。今までの経験を我々後輩に伝えていってもらえればと思っております。

最後に、なかなか見通しがしづらい時ですが、皆さんと共に協力しながら保護司会活動を進めていきたいと思いますのでよろしくお願ひします。

アフターコロナに向けて

東京保護観察所長

古川 芳昭



文京区保護司会の皆様には、長引くコロナ禍の中、更生保護活動を継続いただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

緊急事態宣言においては、感染防止の観点から集合しての活動は控えざるを得ませんが、いつかコロナは必ず収束します。その日に備えて力を蓄えていきましょう。コロナの期間中に自分自身や身近にある環境などを見つめ直す機

会が増えました。この際、自分の磨き直しができる良い機会であると捉え、コロナに立ち向かっていける強くてしなやかな「体力作り」を心がけて参りたいと存じます。

昨年度の社明運動は、ほとんどの地区で強調月間の七月中には活動できませんでした。文京区においては、クリスマススの日に、感染防止に十分配慮しながら街頭広報活動を展開いただきました。今年の活動についても、実施の時期や方法等について柔軟に検討していくことが必要であると思われまます。そのためには、今だからこそ、保護司会内はもちろんのこと、更女を始めとする関係団体や地方公共団体など関係機関とも切れ目のないように連絡をよく取り合っていくことが大切であると考えまます。その手段として、ICTを活用していくことは、今後必須になってくるでしょう。「保護司専用ホームページ」の運用が、モデル地区において試行され始めました。今年度中に本格的に運用が開始される予定であり、報告書の提出や資料・動画の共有を始め、その後数年をかけて、その他の様々な機能を充実させていくことになっていまます。現在、この新しい技術を有効活用して保護司活動を一層充実させていく、大きな飛躍の時期を迎えていると言っております。保護観察所も遅れを取らないように、ICT化について共に推進して参りますので、皆様の御協力をよろしくお願ひ致します。

時節柄、御健康にはどうか御留意いただきまして、文京区保護司会がますます発展されますことを心からお祈り申し上げます。

着任のご挨拶

文京区福祉部長

竹越 淳



令

和3年4月1日付で、福祉部長を拝命いたしました竹越淳と申します。微力ではございますが、誠心誠意努めてまいります。今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて、日頃より保護司会の皆様方におかれましては更生保護事業にご尽力いただきまして、心よりお礼申し上げます。文京区の刑法犯認知件数は年々減少傾向にあり、令和2年においては912件と、平成15年の調査開始以降初めて1000件を下回るといふ結果が公表されております。これもひとえに皆様方のご尽力の賜物であると、改めて感謝申し上げます。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、毎年7月に実施していた「文京区社会を明るくする運動」も中止せざるをえませんでした。2度目の緊急事態宣言解除後も、感染の収束はいまだに見えておりません。この度の感染症の拡大により、社会経済活動は大きな影響を受け、更生保護や青少年健全育成の活動にも深い影を落としています。

そのため、感染防止対策を徹底したうえで活動を活性化していくことが喫緊の課題となっております。こうした中、「新しい生活様式」の

もとオンライン等による活動も定着しつつあります。また、昨年末のコロナ禍における文京シビックセンター周辺広報啓発活動を保護司会の皆様方のお力により成功させたことは大きな意義がありました。

さらに、本年6月より、文京区保護司会の活動を多くの方に知っていただくために、この『情報』を文京区のホームページに掲載する予定であります。日頃の活動内容、保護司に関する情報等を積極的にアピールすることで、更生保護事業の理解促進の一助となり、さらなる活動の発展に資するようお願いいたします。

今後とも皆様方のなお一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。

Withコロナと保護司活動

東京保護観察所 保護観察官

古川 智之



年は新型コロナウイルス

昨

感染症拡大に伴い、更生保護事業におきましては制限・制約が強いられる大変な一年だったと思えます。そんな中、文京区保護司会の皆様におかれましては、いつも前向き且つ柔軟な発想にてご対応頂き、誠に感謝申し上げます。本来なら記念すべき七十回目の「社会を明るくする運動」でしたが、強調月間の昨

年七月は新型コロナウイルス感染症が終息しないこともあり、全国的に中止することを余儀なくされました。そんな中、文京区保護司会では早くから「七月に開催できなくても、時期を検討し、規模を縮小してでも何とか開催できないものか。」という熱意によって、昨年末のクリスマス時期に「短時間（実働三十分）、徹底した感染防止対策の許に（マスクと白い手袋着用）、衛生的な配布物の配布方法（持ち手部分の長い紙袋に入れた広報用グッズ、無理に渡さず通行者が自主的に取りに来る方法）」にて、記念すべき第七十回「社会を明るくする運動」を開催することができました。クリスマス時期に因んでサンタクロースやトナカイの仮装をされている保護司の先生方を拝見し、決してやらされ感ではなく、やるからにはユーモアを用いて楽しんで活動されているのだと実感し、大変勇気付けられました。

今年度におきましても新型コロナウイルス感染症防止を念頭に置きつつ、できる限りの努力と工夫を用いて、引き続き保護司会活動に御尽力頂ければ幸いです。当職の方も保護司の皆様方が安心して活動できるよう務めて参ります。具体的な計画としては、保護司適任者の安定的確保のために「保護司の複数担当制」を最大限活用すること、保護司以外の地域支援者（ネットワーク）開拓と連携強化を図りたいと思います。



開校百二十周年を迎えて

文京区立柳町小学校長 小池 夏子



○柳町小学校の歩み

柳町小学校は、明治三十四年十月二十日に「小石川第一尋常小学校」として開校しました。当時の児童数は二百二十九名であったと記されています。明治三十八年には東京市立柳町尋常高等小学校、明治四十一年には東京市立柳町尋常小学校と校名が改められ、現在の校名である「柳町」の校名が誕生しました。開校したころは、飛鳥山での運動会、徒歩での滝野川や矢口渡への遠足などが記録されており、当時の児童の健脚ぶりが分かります。また、当時の校長先生が「姿勢を正しくすべし」「注意勤勉を旨とすべし」「卑しき言語を用いるなかれ」「誠実であれ」と児童に話したことも記録に残っています。昔も現在も、大切にしてきたことには変わりがないことを改めて感じます。大正の時代に入ると児童数

が増加し、一時は千五百名程も在籍していたそうです。

昭和の時代となり、日本が激動の時代を駆け抜けていく中、本校も「東京府東京市柳町国民学校」「東京都柳町国民学校」と校名を変えながらその時代を過ごしていきます。昭和十九年には戦火が激しくなり、被害を避けるために宮城県鳴子町に集団疎開し、約一年間親元を離れて過ごしました。疎開先でも食糧難で苦しく、遠く離れた家族に送る手紙の内容は食べ物のことばかりであったそうです。

終戦後、現在の「文京区立柳町小学校」の校名となり、ようやく落ち着いた学校生活となりました。昭和三十〜四十年代には、情操教育の研究に取り組み、大きな成果を上げました。この頃、明るい町づくりをしようと、柳町の町名を全部おこんだ「柳町音頭」が

つくられ、以後、毎年運動会での恒例種目となりました。

平成の時代には、地域の開発とともに児童数が次第に減少し、開校百周年の頃には、全校児童が百四十名程となりました。開校百周年の記念に、当時の児童と先生方により「柳町のよいところ」をおこんだ「柳町讃歌」が作られ、現在も児童が大好きな歌となっています。その後、児童数は増加に転じ、令和の時代を迎え、現在は五百名を超える児童が毎日元気に学校生活を送っています。

○柳町小学校の「今」

本校は、豊かな緑に囲まれ、自然の息吹を感じられる恵まれた教育環境にあります。区内の小学校で唯一の土の校庭や、昭和四十一年に作られた「教材園」がその特色としてあげられます。多彩な樹木、日本列島を形どった池、日時計等を備えて作られた庭園は、経年とともににより一層自然の様相を醸し、五十



年以上たった今も、春には筍、秋には銀杏といった自然の恵みを見ることができ、一年を通して竹や多くの樹木が木陰を作り出しています。児童にとってのお気に入りの場所です。「柳の森」という愛称で親しまれています。

本校の教育活動の特色に、「伝統・文化にふれる体験」があります。五年生は、小石川後樂園の御協力により、庭園内の水田で「田植え」「かかしづくり」「稲刈り」といった米作りに関わる体験を行っています。昭和五十三年から毎年続いている取組です。実つたちもち米を精米して届けていただき、鏡もちを作る活動までを通して、食のサイクルを学んでいます。また、三年生は、竹ひご等に色を付けた白玉団子をつけて作る「まゆ玉づくり」の体験を行っています。年末には学校の玄関にまゆ玉が飾られるのが本校の風物詩となっています。一、二年生は、書き初めの練習用紙などを燃やす「どんど焼き」の体験を行っています。たき火を見る経験も少なくなっている昨今では、貴重な体験となっています。新たな伝統・文化体験として、令和二年度は、四年生が風呂敷についての体験学習を行いました。コロナ禍の中、講師の先生に御来校いただくことは叶いませんでしたが、先生と学校とをオンラインでつなぎ、風呂敷



の役割や様々な包み方を学びました。伝統と現代とが融合した新たな学習活動の可能性を感じる取組となりました。

また、「かかわり合い、学び合う特別支援教育」も本校の教育活動の特色です。全ての児童が豊かな関わりの中で共に生活できるように、また、一人一人の児童が確かな学力を身に付けることができるように、特別支援教育を進めています。

地域・保護者の方々にも常に児童を見守り、学校の教育活動に御協力をいただいております。地域学校協働本部「柳っこ応援団」の活動もその一つです。コロナ禍によりやむなく休止している活動もありますが、学習活動や学校行事へのサポート、保護者の皆様との連携による登下校時の見守りなど、様々な「応援」をしてくださっています。

○すべてに「ありがとう」

開校百二十周年を迎えるにあたり、百二十年前からこの地に立つ本校の長い歴史を思うと、これまで支えてくださったすべてにあら

ためて敬意を表するとともに、今を支え、今をとともに生きる児童、保護者、地域に対し、感謝の気持ちで胸が一杯になります。そして、本校は今、より一層充実した環境を目指し、全面改築に着手しております。長きにわたって児童を包んでくれた今の校舎への感謝と、これから先の児童を支えてくれるであろう新校舎への感謝・・・すべてのことに感謝するという思いを込めて、開校百二十周年のテーマを「ありがとう」としました。周年記念事業の取組はすでに始まっています。「記念マスコット」もその一つです。児童が考えた数多くのデザイン画の中から、筍をモチーフにした「たけるくん」が選ばれました。今後末永くみんなに愛されてほしいと願っています。コロナ禍ではありますが、航空写真、記念イベント、記念式典、記念誌など、みんなの力を合わせてできる限り充実したものにしていきたいと考えています。



地域・保護者の皆様から温かい御理解と御支援をいただきながら、百二十年で築き上げてきた伝統をさらに充実・発展させていくよう、これからも力を尽くしていく所存です。

「こんな状況で何も出来ないな・・・」

九地区合同行事実行委員長 倉田 計介

日

頃は文京区保護司会の皆様におかれましては、地域の活動に對しましてご協力賜り誠にありがとうございます。梅雨が明けたばかりの7月末である、本来ならオリンピックの真最中であつたはず、第1回目の実行委員会がシビックセンター4階シルバーホールで、各地区の代表が招集された。20数名が集うにはやや大きな会議室であつた。アルコール消毒は必須の感覚が身につけていた頃だろう。お互いに席の間隔をとりあい、既にソーシャルディスタンスという英語がふと出てしまう時節でもあつた。ただ暑かつた。

児童青少年課長の挨拶、やるかやらないか



は判らないが実行委員長、副実行委員長が選出された。昨年度の結果やアンケートを眺め



ていた。出席した代表委員の気持ちは事前にメールにて配信された「実施意向の発表」が気になるころではなかつたかと感じていた。コロナ禍で各イベントが軒並み延期や中止に、また秋祭りに関しても中止判断をしている地区が多く、消極的な発表になりがちになり、「文の京こどもまつり」も中止の方向に落ち着いてしまうのではないかと不安が頭を過っていました。最初の仕事は中止決定なのかと妄想して会議を見守りました。

行政順から各青少年健全育成会それぞれの

意見が発表された。子供たちの為に実施したいという意見や、コロナ禍で難しいんじゃないかという意見、まだ判断できないという意見もありました。年齢の方が多く、感染するリスクがあるイベントの参加は無理があるのでは、感染が拡大したらどうするんだとか様々な意見が飛び交いました。

一方で例年同様は無理だとしても3密を避け、出来るイベントを考えようじゃないかとの意見もありました。そんな状況で医療従事者の方々に感謝の気持ちを込めて【折鶴を集めよう】・分散型で3密を避ける【スタンラリー】はどうかとの案もありました。最終的に実施条件として3密を避けソーシャル



デイスタンスでの感染予防策が図れること、そして九地区が同じ方向性であることを念頭においたイベントを事前アンケートの形から、事務局と正副委員長協議の上、正副実行委員長案として第2回会議にて了承されました。

当日は絶好の秋晴れの中、全地区は無理と

しても親子連れで楽しそうな笑顔を久しぶりに見せていただきました。来場者数1877名、全ての地区を完走した子供たちはなんと141名。折鶴6874羽が集まりました。この折鶴はシビックセンター1階に暫く装飾されました。

コロナ禍だからこそその各地域・地区のことを考えた委員が集結し、子供たちの為に楽しい、子供たちの為に今できる事を考え出す力があつたのではないのでしょうか。またそのような委員がいて、またバックで支えてくださっている健全育成会があるのだと痛感いたしました。心から皆様に感謝を申し上げます。各々の健全育成会にお邪魔して、イベントに携わる皆様様の活躍の様子を見ることができました。参加人数は例年より少ないですが、活気があつたイベントであり、決行して良かったと感じました。

2022年（令和4年）青少年健全育成会は60周年を迎えます。この九地区合同行事も更に進化し、時代を支える子供たちの笑顔を見守る地域の皆様と共に明るく安全安心に暮らせる社会を望んでおります。その際にも保護司会の皆様には変わらぬご支援を賜りますよう重ねてお願いいたします。貴会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

第71回 社会を明るくする運動

犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ

社会を明るくする運動は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動です。文京区では「文京区社会を明るくする運動推進委員会」を組織し、例年地域に根ざした運動を実施しています。

犯罪からの立ち直りには本人の努力はもとより、周りの人の応援や地域の中に「居場所」があることが大きな後押しになります。立ち直ろうとする人を受け入れ、支える方法は様々です。何が出来るかを一緒に考え、出来ることから始めてみましょう。

文京区社会を明るくする運動推進委員会（構成 30 団体）

- ・文京区
- ・文京区保護司会
- ・文京区更生保護女性会
- ・文京区青少年健全育成会（9 地区）
- ・文京区立小学校長会
- ・文京区立中学校長会
- ・文京区立小学校 PTA 連合会
- ・文京区立中学校 PTA 連合会
- ・文京区町会連合会
- ・文京区民生・児童委員協議会
- ・文京区社会福祉協議会
- ・文京区内警察署少年補導連絡会（4 地区）
- ・防犯協会（4 地区）
- ・文京区青少年委員会
- ・文京区商店街連合会
- ・東京青年会議所文京区委員会（順不同）

東京ドーム周辺広報啓発活動

日時：令和3年7月3日（土）午後3時45分

場所：東京ドーム周辺等

*セレモニーはラクーアガーデンステージ

内容：啓発用絆創膏・ティッシュ等を配布し、運動の趣旨を呼びかける。

文京区社会を明るくする大会

日時：令和3年7月11日（日）午後1時30分

場所：文京区民センター 2A 会議室

内容：(1) 青少年の意見発表（茗台中・本郷台中・音羽中）

(2) 講演会 講師 櫻井由香氏（2008年
北京オリンピック女子バレー代表メンバー）

文京矯正展

例年、文京シビックセンター地下2階 区民ひろばにおいて刑務所作業製品の展示・販売を行っていますが、会場の都合により中止します。

東京ドーム周辺広報啓発活動、文京区社会を明るくする大会については、新型コロナウイルスの感染状況を注視し、状況に応じて中止または規模の縮小を検討します。



東京ドーム周辺広報啓発活動
（令和元年7月）



規模を縮小して行われた昨年の文京シビックセンター周辺広報啓発活動
（令和2年12月）





例年、東京保護観察所長はじめ多くのご来賓をお迎えし、五月に開催される定時総会ですが、緊急事態宣言を受け、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、昨年同様書面による表決を行う事と致しました。

理事・役員会にて審議済みの

- ① 令和二年度各部各班事業報告
- ② 令和二年度歳入歳出決算報告
- ③ 令和二年度監査報告
- ④ 令和三年度各部各班事業計画案
- ⑤ 令和三年度歳入歳出予算案
- ⑥ 会長改選

につきまして書面表決が行われた結果、全員の賛成を頂きすべての議案が承認されました。

福祉部福祉政策課 地域福祉系の皆さん



久保井 知世 (後列・左) 安藤 浩子 (後列・中央) 玉井 厚子 (後列・右)
松澤 知之 (前列・左) 矢島 孝幸 (前列・中央) 恩田 泰子 (前列・右) (敬称略)

会務報告

■正副会長会議……………

令和3年3月1日(月) 18:30～19:40
於…文京区民センター14A
出席者…8名
理事役員会について
各部、班の下半期内容報告

(伊藤 記)

令和3年4月1日(木) 18:30～19:30
於…文京区民センター14A
出席者…9名
理事会について
定時総会内容の検討

(伊藤 記)

令和3年5月1日(土) 18:30～19:30
於…富士神社内消防団会議室
出席者…6名
総会中止の検討 書面表決と決定
ブロック別保護司組織運営連絡協議会について

(伊藤 記)

■部長会議……………
令和3年4月22日(木) 18:00～19:00
於…春日三丁目町会事務所
出席者…6名
令和3年度各部長所属の配属について検討
今年度事業の展望について

(伊藤 記)

■理事・役員会

令和3年3月27日(土) 18:30～20:00
於…大原地域活動センター2F
出席者…20名
下半期、各部各班の活動報告及び会計報告
令和3年度予定、各班世話人、福祉部等新年度人事について。
(伊藤 記)

令和3年4月17日(土) 18:30～19:45
於…大原地域活動センター
出席者…23名
令和2年度会計決算報告、監査報告、承認
令和3年度予算案審議、可決
各部事業報告
(伊藤 記)

■役員選考委員会

令和3年3月8日(月) 13:30～14:30
於…文京区民センター4A
出席者…8名
各班代表が班の推薦として現会長の継続を発表
(伊藤 記)

■ブロック別保護司組織運営連絡協議会の打合せ

令和3年5月17日(月) 13:00～14:00
於…三ノ輪福祉センター
出席者…4名 台東区保護司他3名
今年度ホストとして昨年度のリモート会議設備等
を見学
(伊藤 記)

■今年度事業についての検討会

令和3年5月10日(月) 15:00～16:30
於…文京シビックセンター福祉政策課
出席者…9名 福祉政策課4名
保護司候補者の推薦委員会の検討
社明運動実施に向けて検討
(伊藤 記)

■総務部会

令和3年5月6日(木) 18:00～19:30
於…春日三丁目町会事務所
出席者…6名
総会中止にあたり資料送付及び、書面表決内容検討
(伊藤 記)

■広報部

令和3年3月5日(金) 14:00～16:30
於…文京区民センター2B
出席者…10名
情報570号校正及び会議
情報571号編集作業及び会議
(山田 記)

令和3年3月9日(火) 14:30～17:30
於…ラインによる会議のため各自宅
出席者…5名
どっとファミコのホームページに「情報」を掲載
する件について
(山田 記)

令和3年3月26日(金) 13:00～16:00
於…文京シビックセンター2103会議室
出席者…8名 更女6名
情報570号発送作業及び会議
(山田 記)

令和3年4月5日(月) 10:30～11:00
於…文京シビックセンター11F福祉政策課
出席者…3名
新福祉部長へ原稿依頼と、区のHPに情報を掲載
する件について
(山田 記)

■大塚班会

令和3年3月8日(月) 18:00～18:45
於…大塚地域活動センター
出席者…7名
会長選考について、次期世話人選出
(西川 記)

■保護司が参加した行事

令和2年度保護司会、更女、BBS会代表者協
議会及び研修会
令和3年3月18日(木) 13:30～15:40
於…東京保護観察所 各地区からリモート参加
出席者…1名 更女会長1名
コロナ禍における活動の課題と取組について
(亀田 記)

■その他外部団体への参加協力

文京区民生委員推薦会
令和3年4月21日(水) 13:00～13:15
於…文京シビックセンターシルバール会議室B
福祉部による民生委員の新任候補者について
(亀田 記)

令和3年春の叙勲

瑞宝双光章 亀田 一良氏

退任保護司

令和3年6月24日付
大塚班 清水 友博
富坂班 清水 道隆

就労支援・青少年健全育成協力の活動

文京区更生保護女性会 総務部

文京区更生保護女性会は更生保護の精神の下、更生保護女性会綱領に則り各関係団体と連携し、青少年の健全な育成と更生のため様々な活動を行ってまいりました。その一つに就労支援があります。

更生を目指す青少年などの就労を受け入れたり、青少年の健全育成と犯罪予防など様々な支援活動をしている業者より商品を購入・販売することにより支援するとともに、販売した売り上げを活動資金として就労支援活動を行っております。

平成22年の第1回矯正展から参加し古代穀の販売を始めました。平成26年からは素麺・ちゃんぽんなど品数を増やし、各地区の皆さまのご協力をいただき販売しています。

2020年はコロナ感染拡大のため、ほとんどの活動が中止になってしまいました。矯正展も中止となっていました。会員が、会員の皆さまのご協力をいただきまして、例年通り年2回の販売を滞ることなく行わせていただくことができました。

・古代穀（八穀米）

熊本県菊池市

当時、地域活性化と新規就農者の育成を考えている菊池市と保護司でもあるファームきくち農場の社長が、以前から保護観察対象者の就職が大変困難を極めている現状に頭を痛めていたということもあり、保護観察対象者を受け入れてもらうことを条件に「ファームきくち」は第三セクターの農業生産法人として設立、スタートした。

彼らの給料を捻出するために、また高齢化した集落の活性化をも含めて平成18年から阿蘇の外輪山に広がる棚田で集落の方々に作っていただいた古代穀を買い取り販売し安定収入の道を確保することができた。

・そうめん、うどん、ちゃんぽん

長崎県諫早市

従来の商取引とは別にスポーツ少年団、中学・高校の各クラブ、その他団体組織の活動資金づくりのお手伝いの為、販売した収益を子ども達に還元している。





富坂班 諏訪紀子

以前、ホッと一息の時は一つ屋根の下に四世代同居の大家族でやっとお風呂の順番が回って来て入浴後の一口のビールがなんともホッとした記憶が残っている。その間に市街地再開発が本格的に始まり大家族は転居先に移動してそれぞれの世帯ごとにとでも静かな仮住まいでの生活が始まりました。母・主人・私の三人暮らしは夢に見た時もありましたが少し慣れて来ると寂しい時間でした。そんななか、四年半の仮住まいから完成したマンションへの引越し大移動の開始！

孫達も立派に成長(?)して部屋が狭いと不満を言いながらもなんとか落ち着いた様子で日々を過

ごしている所です。これで終のみかが出来たので、肩の荷もおり「ホッと一息」。この先は六人の孫達の成長を見守りながらも、頭・身体が「サビ」つかない程度にゆつくりと好きな事をしながら余生を過ごして行けたなと思う所です。

富坂班 今井英子

● ● ●

昨年に引き続き、今年も私の誕生日は新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言中のため家族で集まる食事は中止となりました。趣味のビーズアクセサリー作りも、昨年夏に右目を網膜剝離の手術をして以来すっかり自信を失い、制作意欲をなくしてしまいました。

そんな状況の中で好きな海外旅行にも行けないと悶々としていたら、映像の中で旅に出られること

が分かりました。それは、「世界の車窓から」という短いテレビ番組をまとめた特別編集版を見ることです。列車の車窓から見ると、美しい風景は、本当にその列車に乗っている気分を味わうことができ、時間を見つけてはいろいろな国を巡っています。

また、時々深夜に放送されている「ヨーロッパの旅」もよい。ヨーロッパ各地の都市を走る路面電車・トラムはレトロな佇まいでどこか懐かしく感じられ、見ているだけで癒されてホッと一息。そこにカフェオレがあるとなお旅気分は盛り上がります。



あとがき

東京オリンピック・パラリンピックの開催が迫り、世論では中止の声も多くあがっておりますが、発刊の際にはどのような判断がくだされているのでしょうか。各競技開催に係る諸団体の皆様や選手たちは、開催されることを信じて、一生懸命努力をされているものと拝察いたします。

また、新型コロナウイルス感染症拡大の中、医療関係者やエッセンシャルワーカーの方々はもとより、コロナの諸問題解決のためにご尽力されている皆様に、感謝の気持ちを忘れることなく、心より応援してまいりたいと思います。

そのような厳しい状況の中で、快く寄稿いただきました皆様のおかげで、本誌を発刊できましたことに、あらためて御礼を申し上げます。

浅川 昇

〈広報部〉 森山 堀内 山田 大橋 時田
米岡 浅川 根尾 岡崎 西川
塩川 市原

情報 第五七一号

編集 文京区保護司会 広報部

発行人 文京区保護司会会長 亀田一良

事務局 文京区春日一―一六―二一

文京区役所福祉政策課内

印刷所 企画・宣伝協同組合

エコフィールド事業本部